

～創立50周年おめでとう！今までありがとう～安達東高校特集⑦

かわら版  
いわしるろ

集落支援員だより



安達東高校卒業生の声を紹介します！

安達東高校では令和五年度からの二本松工業高校との統合を控え、この三月に最後の卒業式が行われる予定です。高校の歴史を振り返る締めくくりとして、卒業生から高校時代の思い出や在校生へのメッセージを二回に分けて紹介していきます。

▼昭和48年、軟式野球部が全国大会で準優勝したときの入場行進の様子。閉会式では、楽団の到着が遅れたため、急遽、安達東高校のバンド部が演奏したことも思い出に



「全国大会で準優勝。十代の体験が自信や誇りになり、その後の人生を支えてくれました」  
昭和四九年卒 渡辺孝一さん

安達東高校が誕生したのは私が安達高校の大平分校四年生のときです。当時は定時制高校として登校は週四日程度、残りの日は家で農作業の手伝いをしていました。友人と会えるのが楽しくて学校に通っていました。友達と一緒によく走ったり、ふざけたりしました。が、今思うとエネルギーが有り余っていた時期だったんですね。一番の思い出は、その年の夏に私が所属していた軟式野球部が全国大会に出場して準優勝したことです。当時、誰も安達東高校が勝ち進むとは思っていませんでした。ダークホースとして新聞を賑わせました。軟式テニスと卓球部も全国大会に進み、健闘しました。そのときの記憶は、その後の人生に



★渡辺さんプロフィール★  
卒業後は県内の農業団体に就職し、定年退職と同時に長年の夢を叶えて和牛繁殖農家に転身。「苦勞もありますが、やりがいのある毎日です」

おいて誇りや自信になっています。母校がなくなるのは寂しいですが、後輩の皆さんにも夢を持って人生を楽しんでほしいですね。

「高校時代は毎日が輝いていた時期。同じ仲間と学び、遊び、すべてが楽しかったです！」  
昭和五七年卒 三浦きぬ子さん



★三浦さんプロフィール★  
卒業後は福祉関係の仕事に就き、現在も継続中。「老いを迎える人たちが元気になるお手伝いをするのが喜びです！」

私は安達東高校普通科最後の卒業生の一人です。最初の一年間は岩代校舎で学び、二年生のときに現在の校舎に移りました。高校時代の思い出としてクラスのみんなと早弁したことや、県民の森での芋煮会、只見や新潟へキャンプに行ったことなど浮かびますが、どれも本当に楽しかったです。安達東高校の後輩のみなさんには、高校生のその時期にしか体験できないことがあると思うので、悔いの残らない高校生活を送っていただきたいです。



▲旧安達高校岩代分校

「一番の思い出は稲刈りとバイク通学。親に頼み込んで行かせてもらえて良かったです」  
昭和五〇年卒 渡辺薫さん

親に「農家の後継ぎなんだから高校へ行く必要はない」と言われ、「週に三日は農業をするから」と頼み込んで安達東高校岩代分校に入学。私が二年生のときに安達東高校に変わりました。高校時代の思い出として浮かぶのは、生徒会活動の資金集めのため近隣農家で稲刈りの手伝いをしたこと。友達と農作業をするのが楽しかったです。またバイトしたお金でバイクを買って、友達とツーリングに出かけたり、バイク通学もしました。安達東高校ではシクラメン栽培や養蜂、養鶏など、自然を生かす暮らし方を学べるのが本当に素晴らしいと思います。後輩の皆さんには、卒業後も、その体験をどこかで生かしてもらえたら嬉しいなと思います。



▲稲刈りをみんなでした思い出も

★渡辺さんプロフィール★  
卒業後は地元で就職。「母校への恩返しを」と平成15年から20年以上、安達東高校の同窓会の副会長を務めています。



※2月28日(火)朝7:11～ラジオ福島「おらが町のふるさとリポーター」の番組に安達東高校最後の卒業生として3年生が登場します。統合への思いや3年間の思い出などを話しますので、時間のある方はぜひ聞いてみてください！



# I Love Iwashiro 19

〜長折・愛宕神社〜

岩代を愛する人がすすめる魅力あるスポットを紹介。十九回目は長折にある愛宕神社です。

愛宕神社が創建されたのは宝暦六年（1756年）。当時は、火産霊命を祀る愛宕山権現堂と勝軍地蔵菩薩を祀る勝軍地蔵堂が配され、神仏習合の「愛宕山地蔵院勝軍寺」（真言宗）と称されました。明治の頃に神仏分離令が出された「愛宕神社」と改称されましたが、江戸の頃は修験者の寺として知られていたようです。

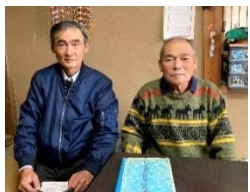
境内の一面の駐車場から見える小高い場所に「大内喜良右衛門」という人物の追悼碑が二つ並んでいます。向かって左側の碑は風化して文字が見えにくく、右側の碑は没後百年に子孫や有志により、建てられたものです。石碑には、



▲杉と檜が林立する長い石段を上ると狛犬が迎える

### ◇紹介してくれた方◇

長折在住  
大内喜代一さん  
橋本正二さん



大内家17代目の喜代一さん（右）と愛宕神社総代、橋本正二さん（左）。他に元総代の石川秀記さんにも話を伺いました。

その人が江戸後期にこの地に生まれ、後に「晴温育」という養蚕法を開発して広めたこと、喜多流謡いの師匠でもあり、門下生は四百人以上、剣道、柔道、書道、観相にも優れ、私財を投じ地域に貢献したことが刻まれています。地元の誇りを感じさせるものは他にもあります。瓦屋根の門は、四本松城の山門を移築したものと伝えられます。鐘撞堂の鐘は戦時中に供出され、戦後、東京で成功した同じ集落出身の男性と地元の有志によって再建されました。以前は地元の交流の場として賑わった神社も、今はひっそりとしています。歴史の変遷を見守ってきたイチヨウの大木が聳え、秋には大地を黄金色に染めます。春には桜や花桃が咲いて風情を添えます。一度、訪れてみて下さい。



▲翼のある龍の彫り物も



▲再建された鐘撞堂



▲大内翁追悼碑が2基並ぶ

## 岩代の歴史シリーズ〜番外編

### 〜渡邊閑哉ゆかりの地を訪問しました〜

閑哉シリーズの番外編として、岩代にある閑哉ゆかりの場所を紹介します。興味のある方は一度、足を運んでみてください。



#### ★閑哉翁の井戸★



▲下長折字除地内にある井戸。渡邊閑哉の生家の目の前にあり、閑哉翁が使ったものと伝えられています

#### ★閑哉翁の墓★



▲代々名主を務めていた渡邊家一族の古い墓地。閑哉翁の石碑が一番右端にあり、8月19日の命日にはたくさんの花が供えられています

#### ★諏訪神社・閑哉翁頌徳碑★



▲閑哉翁の功績を後世に伝えるために門弟や親族によって建てられた頌徳碑。諏訪神社の階段の途中、左手にあります

#### ★閑哉竹★



▲岩代や近隣の川沿いには、閑哉翁が九州視察から持ち帰り、水害の被害を軽減するために広めたという閑哉竹(台明竹)があり、今も河岸を護っています

#### ★諏訪神社・芭蕉の句★

▲諏訪神社の裏手には、閑哉翁が弟子を諫めた際に口ずさんだと思われる芭蕉の句が刻まれた石碑もあります